THT26 検索

自転車さんぽ◆毛利両川トーナメント＋防長かるたドライブ2018

岩国かるたドライブ 検索

THT26 トレジャーハントツーリング

＝企画の再々提案の考え方＝

明治維新の開始時期については諸説あるが、
狭義では明治改元に当たる明治元年旧9月8日（1868年10月23日）となる。
（ウィキペディアより）

「毛利チャレンジ」って何？

殿、徳川追討の件、今年はいかがいたしましょう？
いや、その件は来年に延期するとしよう！

萩藩年頭の挨拶や、関ヶ原後の改易の危機を救った吉川広家の逸話をヒントに、岩国発の明治維新150周年応援企画として、ザッピング型ゲーム旅「毛利チャレンジ」を提案しています。

※毛利博物館の了解を得てネーミングしています。

平成25年8月、山口県の呼び掛けにより「平成の薩長土肥連合」として、平成30年に迎える明治維新150周年に向け、幕末・明治維新の歴史を切り口に、鹿児島県、山口県、高知県、佐賀県の4県が連携した、広域観光キャンペーンを行うとのニュースがあった。

しかしそれでは日本全体で維新の偉業を振り返ることにはならないと直感し、維新の源流は関ヶ原の戦いに端を発すると考え、さらに明治近代化の足跡も含むものとし、年齢性別車種不問で楽しめる「トレジャーハント26」を応用した『毛利チャレンジ』の全国展開を2014年夏（平成26年）より提案しています。（P6 参照）

これまで毛利チャレンジ・アイドリング編として、トレジャーハント26の可能性の再検証や他の移動手段への応用などのノウハウの蓄積と、トーナメント企画を実現するための連携の呼び掛けをして来ましたが、目論見通りに行かない部分と、等身大企画の確信も得られた部分があり、以下の内容にて本丸企画および継続企画が展開できないかと思案中です。

いわくに研究会　＋　転遊研
2017年11月14日

案

2017/11/14（転遊研＋いわ研＋BEI）

【毛利チャレンジ】と【アイドリング編】と【維新のタネ編】

殿、徳川追討の件、今年はいかがいたしましょう？
いや、その件は来年に延期するとしよう！

萩藩年頭の挨拶や、関ヶ原後の改易の危機を救った吉川広家の逸話をヒントにした、岩国市発の明治維新150周年応援企画が【毛利チャレンジ】です。

移動手段や主催者の大小を選ばない年齢性別車種不問で楽しめる“THT26”を応用した企画で、点を線で結び、面を遊ぶ、ゲーム旅の一種です。

但し、毛利チャレンジの全国展開を目指す場合、各エリアに合ったより良い移動手段を探る必要や、各地の地域資源磨きの先達を探す必要がありました。

つまり、ノウハウの蓄積やノウハウの移植を目的とし、派手な展開が苦手な企画の知名度アップを合わせて行う、【アイドリング編】が必要でした。

●2015～2016【アイドリング編】／ノウハウの蓄積とノウハウの移植

★その1）自転車さんぽ♦♦時めぐり萩リターンズ（2015/11/8・萩城址公園発着）／研究会メンバーの自転車さんぽ体験と、県内関係者へのファーストインフォメーション！

★その2）お宝かるた♦♦くるっと岩国・トライアル（2016/1/31・岩国中通り商店街まちなか交流ホール発着）／いわくにバス一日乗車券を利用した、公共交通バージョンの実験実施と、市内協力者への再度の呼び掛け！

★その3）熊毛王の謎巡り♦♦岩国かるたドライブ＆自転車さんぽ柳井（2016/5/1・日積キャンプ場発着）／【岩国かるたドライブ】＋【時めぐり柳井】＝【世界初のザッピング企画】の実験実施。

★番外編)お宝かるた♦♦くるっと岩国16－17（8/28・海岸往復コース、12/11・岩国の玄関巡りコース、2/12・五橋巡りコース）／その2のトライアルで判明した、バス時刻表攻略と一日乗車券有効利用を念頭に、岩国市みんなの夢をはぐくむ交付金を利用しての定期実施。

★その4）THT26自転車さんぽ♦♦毛利両川トーナメント（2017/2/12・福屋3F コミュニティホール発着）／等身大企画では、連携でアピールする作戦を取る必要があり、宇部市、安来市、防府市、大竹市などの大会と連携したトーナメント企画の実験実施。 **（地域貢献型マルチサイクリングクラブの第一歩！）**

●【アイドリング編】総括（抜粋） ※詳細 ⇒ http://www.bike-joy.com/ICD.htm

2015年度NHK大河ドラマ「花燃ゆ」の放映前々年に、明治維新150周年広域観光キャンペーン「平成の薩長土肥連合」を行うとの発表が。それを受け、岩国市発の応援企画【毛利チャレンジ】を考え、【アイドリング編】を通じて、市や県や財団にアプローチするも、我々の力不足もあり、現状に留まっています。　それは何故か？？？　当企画のベース“THT26”は、“サスティナブルツーリズム”の典型例のため、“マスツーリズム”の呼び水となる、観光キャンペーン企画との親和性は薄いものと思われます。**しかし、それは地域資源磨きの可能性を秘めている証拠に他なりません！**

●2017【維新のタネ編】・・・・・企画当初は**「戦国時代の毛利の拡大と、江戸時代の維新への胎動を、“維新の種”として展開。基本の企画は“THT26◆自転車さんぽ”だが、エリアの特徴によって、ドライブバージョンと徒歩バージョンも織り交ぜる。」**として、西日本広域展開を目指していましたが、現状は「防長かるたドライブ2017」として県内での展開となっています。（P7 参照）

【2018年本丸企画／維新のキセキ編】

ドライブバージョンと自転車さんぽバージョンのザッピング企画

岩国市から発信する明治維新150周年応援企画として、“いわくに研究会”が着目したのは、繰り返しになりますが、関ヶ原の戦いでの吉川広家公の行動です。

“歴女”や“山ガール”や“自転車ブーム”と言う言葉を耳にしますが、やはり一般には疎遠なマニアックな部分があるため、ここで、少し詳しく説明します。

関ヶ原の戦いにて徳川軍に背後から攻め込もうとした毛利秀元の先陣であった広家が出撃を渋り、道を空けなかったため、さらにその背後にいた長宗我部盛親の出陣要請に対し、苦し紛れに秀元が「今、兵に弁当を食べさせている」と答えたことから、「宰相殿の空弁当」と言う故事成語を生みました。
そして西軍総大将毛利輝元の毛利本家が取り潰しに会うところ、徳川に嘆願し、自分に与えられようとしていた防長二カ国への減封に留めた広家の動きが、毛利藩年頭の挨拶「殿、徳川追討の件、今年は如何いたしましょう？」「いや、その件、来年に延期するとしよう。」という逸話を残すほどの遺恨を生んだと推測でき、維新の胎動へと繋がったと考えられます。

これらの逸話をヒントに応援企画「毛利チャレンジ」を組み立て始め、戦国大名毛利元就の長男・毛利隆元＋次男・吉川元春＋三男・小早川隆景の政治体制「毛利両川」や、江戸後期毛利藩の撫育型蓄財「防長三白（塩＋蝋＋紙）」などにテーマを求め、県内外での展開を改めて目指しています。

その県内外での展開は、これまでのアイドリング編等の実践から、移動手段のザッピング企画として、県内はドライブバージョンの「防長かるたドライブ2018」を、県外は自転車さんぽバージョンの「毛利両川トーナメント」として、下記試案にて組み立てられればと考えています。

― 維新のキセキ編展開試案 ―

毛利両川トーナメント		防長かるたドライブ2018 戦国～江戸～明治 温故知新タイムハンター編
萌黄のラリーデイ2018 維新の種編	紅葉のラリーデイ2018 維新の軌跡編	
岐阜県／関ヶ原（オープニング大会） 広島県／厳島の戦い 山口県／防長経略 島根県／月山富田城の戦い 鳥取県／鳥取城攻略戦 岡山県／備中高松城の攻防 鹿児島県／鹿児島市 高知県／高知市 佐賀県／佐賀市	神奈川県／横須賀市 長崎県／長崎市 山口県／四境戦争 京都府／鳥羽・伏見の戦い 山梨県／甲州勝沼の戦い 東京都／上野戦争 福島県／会津戦争 北海道／函館戦争 山口県／岩国市 吉川広家終焉の地（ファイナル大会）	2018年8月／キックオフの回 ／岩国市周辺（大島口と芸州口） 9月～11月 ／セルフ参加企画Ａ（山口県内52TP） ／セルフ参加企画Ｂ（中国地方52TP） ※バーチャル参加可能 12月／エンディングの回 ／下関市長府（維新発祥の地）

制作スケジュールや企画連携要件はこれからですが、まずは方向性をご理解して頂ければ幸甚です。

【継続企画／毛利チャレンジ Plus Ⅰ】

地域の福地化を考える“いわくに研究会”では、人口減少地での交通手段の確保もテーマのひとつです。
そのため、自転車と自動車の走行環境を考える、
移動手段を選ばないトレジャーハント26によるザッピング企画は、
会としても取り組む価値のあるものでした。

その中で改めて見えて来た、自動車と自転車の差異があります。

同じルールで行う企画でありながら、
「かるたドライブ」は市や財団の助成を受けられるが、「自転車さんぽ」は受けられない。
また、警察からの問い合わせも、前者は全く無いが、後者は多々ある？

つまり、道路は自動車用に作られており、標識類も自動車目線で設置・施工されていると言う事実です！

では、「自転車ブーム」と「自転車文化」と「イベントサイクリング」の関係性はどうでしょう。
これは“いわくに研究会”ではなく、“転遊研（自転車遊び総合研究会）”の守備範囲となるが、
昨今の自転車ブームやイベントサイクリングは、自転車文化とは違う次元で進んでいて、
自転車走行環境整備には、ほぼ無関係と言って良いと思います。

サイクリングの世界基準は自主性を重んじるもので、UCI（国際自転車競技連合）では
「サイクリングとは、レースを含むスポーツサイクリング全般」としています。
一方の日本では、個人の自転車利用は当然認められているものの、
集団でのサイクリングの法的根拠は皆無で、
それに近い通学に関しては、道路交通法を無視した通学路が設定されていたりします。

また、イベントサイクリングに対しての警察の見解は、一般道の目的外使用であり、
デモ行進に近い位置付けとなっていて、使用許可が前提で、旗振り誘導が常態化しています。

つまりここでも、ガラパゴス自転車文化が見え隠れします！！

そのガラパゴス自転車文化の国に、世界7大サイクリングコースのひとつ、しまなみ海道があります。
確かに海を跨ぐ海上ルートは絶景であり、多島美も魅力です。
しかし走行している“道”は、原付自転車のための生活道路であり、サイクリングには適していません。
そういったことは別にしても、地域振興にサイクリングを選ぶ自治体があるのはブームだからでしょうか？

山口県も然りと思われます。さらに後発のメリットを生かし切れていないのが、残念ですが。。。

そこで、プロショップからの要望があった、「やましろMTBツアーズ」の可能性がクローズアップされます。
三方向が海に面する山口県には、実は日本では稀なシーサイドコースがあります。
遠来者用の「サイクル県やまぐち」から、地元自転車愛好家用の**「サイクリングフィールド山口」**への
方向転換を、明治維新150周年の後継企画として提案したいと考えます！！

その心は、相も変わらず「地域貢献型マルチサイクリングクラブ」の提案です。

案

【継続企画／毛利チャレンジ　PlusⅡ】

始まりが前項の続きで申し訳ありません。
サイクリングの世界基準は、道路は全ての利用者のものと言う前提で、
ポタリングからレースまで境目の無い状態です。

しかし日本の道路は車優先設計のため、ソロツーリングとレースの間に存在する
呼び掛け人の居るサイクリングはグレーゾーンとなっており、
これまでの経験から分割して論議する必要性を感じ、
ソロツーリング ＜ **クラブライド ≦ ガイドライド ≦ コンペライド ≦ イベントライド** ＜ レース
と、分類できるのではと考えています。

トレジャーハントツーリングはこの分類の「コンペライド」に属し、性格的には、
自転車であっても、自動車であっても、
一般道を交通ルールに則って走る、ゲーム旅となります。

但し、“いわくに研究会”でのザッピング企画の実践から、
それぞれのメリット・デメリットが改めて確認でき、
さらに、新たな可能性の発見もありました。

まずメリット・デメリットのおさらいから。
どちらも等身大企画ではあるが、TP調査に関しては、
自転車バージョンの方が場所も選ばずコンパクトで費用もかからず、制約がより少ない。
一方、当日の運営では、自動車バージョンの方が天候や安全面を気にせず行え、
何と言っても、ドライバー１人で何人もが楽しめ、買い物ゲームも別枠で行える。

そして見えて来た可能性は、
その「買い物タスク」と集計時間を利用して行う「グルメタスク」からで、
最も苦労している景品集めと表裏一体ではありますが、
地元産品の斬新な見せ方の発見（に等しいもの）です。（詳細は企業秘密！？）

かるたドライブでは、福袋形式の景品を用意して、
ゲーム旅の成績に応じて、福袋を選ぶ順番を決めていますが、
その中身を集めるのに苦労しているのは事実です。

しかし、セルフ企画の出走確認のための「買い物タスク」や、
バーチャル企画と連動した「グルメタスク」の通信販売など、
地元や協力各社との連携をより強めながら独自資金を生む方法の、しっぽが見えたと感じています。

この“THT26”をベースとするゲーム旅は、P1のアイドリング編総括にあるように、
“サスティナブルツーリズム”の典型例のため、“マスツーリズム”の呼び水となる、
観光キャンペーン企画との親和性が薄いのは事実ですが、
地元産品のPR企画と考えると、イベント的にも、セルフ的にも、バーチャル的にも展開できる
これまでに無い**「６次産業化プラスアルファ」**と言えます。

【毛利チャレンジ2018に向けて】

岩国かるたドライブ 検索

**下記は、2017年7月23日に作成した案内文です。
これにはザッピング企画としての全体像や、
プラス1やプラス2の考えは含まれていませんが、
目的や概要や企画協力のお願いに関しては、特に変わりありません。**

**そのため、要望事項や依頼事項も多岐に渡るため、
改めて個別にご案内したいと思います。**

企画協力のお願い

盛夏の候、皆様には益々ご活躍と拝察申し上げます。
2017年も8月が目の前ですが、その後半から来年にかけての企画展開についてのお願いです。

前述のように、岩国発のオリジナル企画“かるたドライブ”を応用した明治維新150周年応援企画を、【毛利チャレンジ】として実行中です。

2015年夏の立案から、足掛け3年の【アイドリング編】を経て、今年度は山口きらめき財団の助成対象事業として、別紙チラシ案の【防長かるたドライブ2017】を準備中です。そして、維新150周年に向け下記概要案の【かるたドライブ♦♦維新のキセキ編】を考えています。

つきましては、今年度後半の「米の回」、「塩の回」、および、来年度の【維新のキセキ編】に対し、資金的なバックアップや、運営や企画へのご理解、ご協力を賜りたく、ご案内申し上げる次第です。

いわくに研究会／中野敏・石丸英明

…… 記 ……

◆名称：明治維新150周年応援企画・毛利チャレンジ／維新のキセキ編2018
◆目的：点を線で結び、面を遊ぶ、地域資源活用型ゲーム旅、“かるたドライブ”の定着と、地域資源磨きの先達の重要性を再認識し、街と里の交流促進を図り、県内の福地化を目指す。
◆概要：その日その場に行くイベント参加に、任意出走のセルフ参加と机上旅に等しいバーチャル参加を加え、“THT26”の可能性を最大限に活用したマルチエントリー企画。
⇒県内の維新関連史跡や明治近代化遺産を中心にトレジャーポイントを52箇所設定し、現場クイズの答えを求めてTPを巡るセルフ参加と、ワード検索で答えの解るバーチャル参加を先行させ、その上位者（割引優待）と一般参加を対象にした、宿泊を伴う明治維新150周年記念大会を行う。
⇒記念大会コース案：四境の役の各エリアからスタートし、一旦山口市に集合、そして交歓会とブリーフィングとウエイクアップゴーでスタートし、秘密の最終目的地を目指す。

★協賛等、企画協力要件に関しましは個別にご相談させて頂きたいと思います。

《いわくに研究会事務局》
〒740-0044 岩国市通津 1951-10 T.090-5573-9372 F.03-6368-4661
BikejoyQ@aol.com http://www.bike-joy.com/ICD.htm

案